

障害の種別に応じた教育

視覚障害の幼児児童生徒の教育

見えなかったり、見えにくかったりする幼児児童生徒を対象に、小・中学校等に準ずる教育を障害に配慮しながら行います。

見えない幼児児童生徒へは、物によく触って形や大きさなどを理解したり、音やにおいなども手がかりとして周りの様子を予測したり確かめたりする学習や、点字の読み書きなどの学習をします。また、白杖を使って歩く力やコンピュータ等で様々な情報を得る力を身に付けるようにします。

少しでも見える幼児児童生徒には、見えの状態に合わせて拡大したり、白黒反転したりした教材を用意して学習します。

また、見えやすいように環境を整備し、視覚を最大限に活用しながら、事物をしっかりと確かめる学習を行ったり、弱視レンズの使用やコンピュータ操作の習得も行っています。



◎指導や支援の留意点

- ・教室の照明の調整をしたり、文字を拡大した教材等を用意したりします。
- ・弱視に適したレンズ・ルーペ類を使用します。
- ・目と手の協応動作等による視知覚訓練を行います。
- ・実物に触れたり、実際に体験したりする機会を増やします。